

月刊 まち・コミ

2009年2月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



● 今月の注目記事 ● P1～P3 まち・コミでのインターンを振り返って。

まち・コミでのインターンを振り返って。

～静岡大学大学院 小泉雄基さんの1週間～



1月13日から17日まで、静岡大学大学院情報学研究情報学専攻1年の小泉雄基さんがインターンシップでまち・コミへやってきました。彼のテーマは「まちづくりにおける市民参加」で、今回のインターンでは、「復興にあたり、どのように市民が参加し、復興に対する合意をどのように構築していったのかを知りたい。また、その背景でどのような問題や発見があったのかなどのお話しが聞ければ」とのこと。そこで、住民へのヒアリングとまとめ作業を中心に、まち・コミを手伝ってもらいました。

今号では、小泉さんがまち・コミにやってきて見たことや感じたことを、自由に語ってもらいました。

まち・コミを訪れて

こうべあいウォークに参加して

1月11日に行われたこうべあいウォーク(こうべあいウォーク2009 実行委員会主催)に参加することから、今回のインターンが始まった。あいウォークは、野田北部にある大国公園をスタートして、被災地を回った。地元の方がガイドとなって、当時の体験やまちの様子をつぶさに語ってくれた。私は、震災前の神戸の様子を知らなかったが、一緒に参加した方々の口からは、昔とは大きく変わった町の様子に驚く声が聞こえてきた。

あいウォークでは、地域に作られた公園をい

くつか回った。どの公園も、設計段階から住民が参加し、住民のアイデアが盛り込まれていた。そのどれもが、10年近くたっているにも関わらず、地域の人々の手によって花壇は綺麗に保たれ、公園の掃除も行き届いていた。住民参加で公園を作ることはどこでも行われていることだが、公園を作った後も、住民自らが公園の手入れを行っているところは初めて見た。ただ、公園を作って



こうべあいウォークのゴール地点

終わりではなく、その後の維持を住民自らが、行うことの大切さを感じた。

もう一つ印象的だったのは、区画整理や再開発が行われた地域を回ったことだ。再開発によって出来上がったビルは空き店舗が目立ち、区画整理事業が行われたまちは、どこも似たような表情になってしまう。そんなことをまざまざと見せつけられた一日だった。

あいウォークのゴール地点になっていたまち・コミでは、豚汁の炊き出しが行われていた。とても寒い日だったので暖かい豚汁はとてもうれしかった。

初顔合わせと歓迎会

インターンの初日は、まち・コミのみなさんとの顔合わせと今後の日程や御蔵についての説明を受けた。御蔵の成り立ちや地域特性について



そばめしづくりに初挑戦

の話、震災当時の話を伺った。御蔵の歴史や震災当時の状況などの話は、とても新鮮で、勉強になった。

午後には、地域のご婦人方が、そばめしを食べたことがないという私のために、そばめしを作って歓迎会を開いてくれた。そのときに作ってくれたそばめしはとても美味しかった。

正直、最初はとても緊張していたが、こうした

温かいもてなしの中で次第に緊張は解けていった。そばめしを食べながら、震災の話やいろんな話をした。歓迎会は、とても楽しかったし、インターンの中でのとてもいい思い出だ。心のこ

もったおもてなしにはとても感謝している。

ヒアリングを通して



ヒアリングの様子

インターンのメインの作業は、被災者の方たちへのヒアリングだった。これまで、書籍などで、阪神・淡路大震災について学んできたが、やはり被災者の方の生の声は違う。当時の様子が14年たった今でも伝わってきた。震災がどれほどの影響を人々に与えてきたのかが克明に語られた。

今回のヒアリングでは、四人の方のお話を聞いただけだが、それぞれの方が置かれていた状況によって、震災の経験や見方は大きく異なる。長田区に住んでいた人、違う区に住んでいた人、お金がある人、ない人、仕事をしていた人、していない人、障害のある人、ない人、それぞれに異なった震災の経験や震災を通じて考えたこと学んだことがあった。

中でも印象に残っていることが二つある。

一つは、震災の話の中では、人とのつながりや人の温かさがよくクローズアップされるが、そればかりではないということ。置かれた状況の違いからのねたみや僻みなど人間の見たくない部分も現れたという話にはとても考えさせられた。もし、自分自身がその状況に置かれたら、どちらの行動をとるだろうか。人に優しく出来るだろうか。温かく接することができるだろうか。簡単には答えは出ないが、前者でありたいと切

に思った。

もう一つは、「町は綺麗になったが、人の温かさはなくなった」という一言はとても印象的だった。「人の温かさ、下町独特の雰囲気求めて戻ってきたのに、町に人がいない」そうおっしゃっていた。

防災に強い町を作るためには、ハードの部分をかえる必要はあるし、元のままの状態に戻していいわけではない。当然町を作り変える必要はあるだろう。しかし、それぞれの町の“らしさ”がなくなってしまう復興のあり方は本当によいのだろうか。もっと別の方法や取り組みがあったのではないか。私にその明確な答えを出すことはできないが、改めて復興とは何を指して復興というのだろうかと考えさせられた。

今回のヒアリングの経験は何事にも代え難いものであった。

1.17 慰霊法要

慰霊法要の前日には、法要に訪れたまち・コミ関係の方に食べてもらうかす汁作りのお手伝いをした。三十人分のかす汁を作るのは、一苦労だ。私は、酒粕をだし汁で伸ばす作業を手伝った。これが意外と力が要る作業で結構疲れた...



かす汁づくりのお手伝い

1.17 法要当日は、まち・コミ関係の方を招くための準備のために朝から大忙しだった。法要開始ぎりぎりまで、準備に追われていた。

初めて参加する慰霊法要はとても心に残るものであった。お坊さんをはじめとして、多くの人

たちが、遠方からこの日のために集まっている姿は、震災がいかに多くの人に影響を与えてきたのかを物語っていたように思う。

1.17 という日が、14年たった今でも、震災に関わる人たちには特別な日であり、その一人一人にそれぞれの想いがあるのだと実感した一日であった。

インターンを振り返って

今回のインターンでは、実際に被災地を歩き、被災者の方のお話を聞くことが出来たのは私にとってとてもいい経験になった。やはり、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることでしかわからないことが多くあるのだということを再認識することが出来た。

災害は、それまで人やまちが持っていた潜在的な課題や問題を一気に顕在化させるものだと私は思う。災害によって現れてきた問題の一つ一つを解決していくことが復興まちづくりなのだと思う。その過程の中で、更なる問題が表れ、またその問題を解決するために努力する。そんな気の遠くなるような作業の繰り返しである。

関西学院大学で行われた被災地交流会というシンポジウムの中で、復興まちづくりには、「あーでもないこうでもないといえる場」が必要だという話があった。私は、まち・コミはこのような場ではないかと思う。まち・コミを訪れる人たちはみな「あーでもないこうでもない」とまちづくりについて語っていた。こうした場というのは、町にとって必要だと思うし、そこに人にとっても必要なものだと思う。

まち・コミのみなさんに、「またおいで」といわれたことが何よりもうれしかった。こうした一言の中にまち・コミが大事にしてきたものが詰まっているように思う。

今回のインターンでは、沢山の人の助けのおかげでとても充実したインターンであった。

御蔵の皆さん大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



阪神・淡路大震災 語り部からのメッセージ 第5回

御蔵通6丁目で被災し、御蔵通6丁目で暮らす 鈴木八重子さん

きっかけはなんとなくですね。まち・コミュニケーションの方々が最初に修学旅行生の受け入れを始めたときから語り部というものをさせていただいています。ただ、私は語り部っていうのがあまり得意ではないんです。経験がないので。震災当時も今も同じところに住んでいますけど、家も倒れてないし、火事にも遭ってないんです。それで避難所にも行ってないんで、自分で体験したということはちょっと話しにくいですね。それでも、語り部のほかにも行っている炊き出しを中心に今でも参加させていただいています。私は農家の出身なので、薪でごはんを炊いたりお水を汲んできたりっていうことは教えてあげられるので。自分でもわかっていることですし、何十年も前のことが再現できて懐かしいような不思議なような感覚なんです。

炊き出しをしていると、やはり若い生徒さんたちと触れ合えるので、覇気や張り合いが感じられるんです。普通に生活していたら若い子とそんなに触れ合う機会もないので、同等に話したり、時には大いばりに教えてあげられたりすることはとても嬉しく思えますね。もう歳なので、できる事はできる限り続けていきたいと思っています。もしやめてしまったらきっと歯が抜けたように寂しい気持ちになりますので、元気で歩いていかせてもらえるまでは参加させていただきたいと思っています。

それで震災当時なんですけど、一番困ったのがトイレでしたね。電気やガス、水道が通ってないのは、私は戦争を経験していますから、それらがなくても生活できるんです。戦時中の方が物がなくてもっと不自由だったくらい。それを越えてきていますから、ライフラインが通ってないことに関しては平気だったんです。でもトイレだけはそうもいなくて。お腹がすいたということは辛抱できますけど、トイレは我慢できませんよね。トイレは昔と様式が異なるので、本当に一番困ると思うんです。ただ私の家の場合は昨日のお風呂の水が残っていたんで、なんとかかなりました。だからお風呂の水はすぐに流さないで次沸かすまでとっておくと、いざというときに役立つと思います。震災学習に訪れた若い生徒さんたちには、防災面においてこのことを一番話してあげたいんです。何を準備しておくといわれても、やはり難しいと思うんです。地震が起きたときそれが自分の近くにあるとは限らないし、永久に置いておけるものでもないです。だからお風呂の水を捨てずに貯めておくというのが、一番簡単で役立つことなんじゃないかと思いますね。



【取材 専修大学 宮下真優奈】

まち・コミnews



神戸市埋蔵文化財センターで語り部研修

2月21日、修学旅行生への震災学習で語り部として活動しているメンバーの研修の一環で、神戸市西区にある神戸市埋蔵文化財センターに行ってきました。

埋蔵文化財センターではまず、職員の丹治康明さんに、御蔵遺跡(御蔵通4~6丁目あたり)についてお話しいただきました。丹治さんは、震災後の御蔵遺跡の発掘調査に関わっておられます。「埋蔵文化財調査が必要ではありますが、発掘調査をすることで地域の復興区画整理事業が遅れるのではないかと心配があり、気をつかう調査でした」と丹治さんは当時を振り返ります。実際に、区画整理で道路にあたる部分から先に調査を進めたそうです。

御蔵遺跡は、奈良時代の建物跡や集落跡が見つかっています。和同開珎も3枚ほど見つかり、神戸市全域でも10枚ほどしか見つからない珍しいものだそうです。はっきりとはわかりませんが、庶民の生活の場というよりも、地方の役場があったことが推測されるそうです。

御蔵のいにしえに思いを馳せた1日でした。



研修の様子



御蔵遺跡出土品

大地のつぶやき

〈 農作業の休みに思う 〉

昨年十一月末に玉ネギの苗を約一万四千本植えて、昨年度の農作業は全て終わった。こののち、出石は積雪で三月の下旬にジャガイモの畝づくりと植え付けまで休止となる。その時は当然に玉ネギの雑草抜きも同時作業となるだろう。出石の菜園も今年は五年目を迎える。畝づくりの時に鶏糞・有機石灰等をまくが、その後は一切施肥も薬剤の散布もない有機農法だ。途中では雑草抜き、虫取りに追われること頻りだが、これもまた楽しい。雑草にしろ、虫にしろ生きとし生けるものだ。それぞれれっきとした名がある。雑草呼ばわりとは怪しからんと叱られそう。敵対するのではなく、南無さんと唱え、また食料自給率が少しくも上がります様に、一人でも多くの人に農作業の楽しさを知って欲しいと念じながら除草、駆除する。この時すでに諸々の命を頂いていることになる。昨年は大量輸入の小麦粉やトウモロコシ、大豆について「買い負け」という言葉を聞かされた。食料危機はすぐそこまで迫っている。出石に通って思うのは食料問題は大半が都会に住む我々の方に余りにも問題意識に欠けている様に思える。丁度戦後の食糧難の時代に都会の人たちは着物や骨董品を持って農家を訪ね、食糧と交換して飢えを凌いだことを忘れている。ましてや食べ残しや手つかずで捨てる分量が二十五%もあるとはいつか来た道を繰り返すだろう。あの頃は食に対する文化がまだあった。都会人よ！ 農作業で今一度「食前の言葉」をかみしめようと言いたい。一、この食物が食膳に運ばれるには幾多の人々の努力と神仏の加護によることを思っ感謝致します。二、私の徳行の足りないのにこの食物を頂くことを過分に思います。三、この食物に向かっ貪る心、厭う心を起こしません。四、この食物は天地の生命を宿す良薬と心得ていただきます。五、この食物は道業を成ぜんがためにいただきます。(「赴粥飯法」より)

※道業を成ずれば自分を完成する

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

1/1 ~ 1/31

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1/5 仕事始め | 1/16 研修受入 | |
| 1/7 講演打合せ(高槻市コミュニ
ティ推進室打ち合わせ) | (山古志村支援委員受入) | いきいき下町推進協議会主催フォー
ム・戸田) |
| 1/11 こうべあいウォークで炊き出し | 1/17 ろうそく法と
まち・コミ振り返り感謝の集い | |
| 1/13 スタッフ打ち合わせ | 1/18 ~ 30 台湾にて
古民家移築打ち合わせ | |
| 1/13 ~ 17 小泉さん(静岡大学)
御蔵インターンシップ | 1/30 修学旅行下見受入 | |
| 1/15 講演(兵庫県自治研修所
パネリスト・宮定) | 1/31 講演(こうべまちづくり会館 / | |

ご支援、ありがとうございます。

1/1 ~ 1/31

賛助会員(新規・継続)

中尾嘉孝(兵庫県) 船橋晴俊(神奈川県) 住田功一(大阪府) 神戸元町商店街連合会(兵庫県) 辻山幸宣(東京都)
 廣井昌利(兵庫県) 寿松木宏毅(秋田県) 櫻井朝教(長野県) 青池憲司(千葉県) 佐藤美姿(埼玉県)
 森山正和(兵庫県) 南野佳代子(大阪府) 柳瀬伸宏(兵庫県) 齊田哲平(東京都) おおさかの街編集部(大阪府)
 高田昇(大阪府) 藤田廣行(大阪府)

協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 台湾へ日本の古民家を移築するにあたって少しぐらいは中国語ができなければ・・・ということで、中国語講座を始めましたが、新しいことを始めるのは難しい! 中国語を学ぶ前に能トレが必要!?(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2009年2月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/